



TOPICS | まちの話題

6/11 戸籍が電算化 戸籍総合システム稼働



戸籍の電算事務が始まりました。戸籍の管理、記載、発行事務をコンピュータで一元化することにより窓口での待ち時間が短縮されます。

主な変更点は、戸籍謄本・戸籍抄本の名称が変わり、また、証明書がA4判、書式も横書き（項目形式）に変わりました。

稼働式では島多慶志市長と佐藤弥内旭川地方法務局次長がテープカットを行い、島市長がコンピュータのスイッチ操作を行って証明書を発行しました。

戸籍電算化の詳しくは広報なよろ5月号のチラシをご覧ください。

6/17 名寄～下川をたすきでつなく



今年、37回目を迎えた名寄下川間往復駅伝競走が行われました。

気温13.9。北よりの風が吹いて小雨がぱらつくコンディションの中、フルコース(42.195km、7区間)とハーフコース(21.0875km、5区間)に、合わせて44チームが参加しました。

全道から参加したランナーたちは、沿道の歓声を受けながら、中学生・高校生・一般・女子・自衛官のそれぞれの部でたすきをつなぎました。

中学生の部では大会最高記録が出るなど、力強い走りを見せていました。

6/17 名寄ふるさと大使に、なよろあすばLOVEキッズ



名寄ふるさと大使は、市の知名度向上と発展に貢献していただくために、市内在住者や出身者、さらに名寄にゆかりのある方など、平成20年6月からこれまでに料理研究家の星澤幸子さんなど、1組7人の方を委嘱しています。

第2回なよろアスパラまつりのステージに勢揃いした「なよろあすばLOVEキッズ」は、市内の小学生女子13人で構成。ふるさと大使第1号となったなよろアスパ恋(らぶ)に続いて、地元FM局「Airてっし」がプロデュース。市長から委嘱状を手渡され、今後の情報発信が期待されます。

6/20 杉並区との交流が20周年を迎えました



平成元年7月に杉並区と風連町とで締結された交流自治体協定は、平成18年6月6日に新名寄市に引き継がれ、交流の歴史が20周年を迎えました。この日行われた歓迎交流会では、山田宏区長ら訪れた代表団が、これまで築き上げてきた子ども交流事業や阿波踊り、物産展などの地域と文化、産業の交流など、この間の成果を踏まえ、更に飛躍的に友好関係を発展させることを願って名寄市との共同アピールを行いました。

翌日には道の駅もち米の里 なよろで都市と農村の共生を願いながら、記念植樹を行いました。